資料 2-5

協議会における取組（ワーキンググループ等）の進め方

（背景）

全国の国立公園における満喫プロジェクトの 2026 年以降の取組方針においては、「地域協議会等を協創の場として機能が発揮されるよう、推進体制の見直し・改善を図る」ことが位置付けられている。また、SUP2030 の検討にあたり、令和７年度の地域協議会における SUP2025 の振返りでは、「利用・保全両面から取組をけん引する主体としての地域協議会として、魅力向上の取組を議論し、前に進めていくための主体としての協議会に発展させていく必要がある。その際、協議会としての事業を実施することも有効」と整理された。

（対応方針案）

大山隠岐国立公園全体で共通する課題について、優良事例や課題共有を行い、改善につなげる場とする。室内での情報交換のみならず、フィールドにおける取組等も行う。国立公園のストーリーを体現する横断的な取組の実施等も検討する。

【設置するワーキンググループの想定と課題】

１．**ガイド養成**：当該公園内の様々な主体がガイド養成やツアーの提供等を行っているが、国立公園のストーリーを伝えられるガイドには至っていない。また、スルーガイドが不足している。

２．**登山道維持管理**：各所で近自然工法による整備を含め登山道整備が進められているが、知見の共有がなされていない。維持管理体制や管理者の観点での課題がある。

３．**草原景観維持**：草原景観の喪失と生物多様性の損失が進んでいる。各地で山焼き等の取組が行われているが、知見が共有されていない。資金面及び人的体制が整っていない。

【対象者】

・地域協議会及び地域部会の構成員や大山隠岐国立公園パートナー

【令和８年度の予定】

・11 月～12 月　ニーズ調査

・１月～２月　ワーキンググループごとに情報交換会の開催

・２月～３月　リレーフォーラムの機会にワーキンググループ報告会を開催